

Contents

～学長・センター長メッセージ～

「教育の「質の転換」をめぐる」・・・ p. 1
「学生参加型 FD」・・・ p. 1

～卒業時・新入生アンケート結果報告～

学生の主体的な学びへの課題 ～FDの観点から～・・・ p. 2-3

～全学 FD 研修会報告～

平成 26 年度 TA (ティーチング・アシスタント) FD 研修会・・・ p. 4
平成 26 年度新任教員 FD 研修会・・・ p. 4
平成 26 年度教育改善シンポジウム
「学修支援室の活用とアクティブ・ラーニングの実践事例」・・・ p. 5

～FD 活動紹介～

各学部等の主なFD活動一覧(平成 26 年 4 月～平成 26 年 7 月)・・・ p. 6
各学部・研究科における FD 活動レポート
＜文学部＞＜食環境科学部＞＜理工学部＞＜ライフデザイン学部＞・・・ p. 6-7
学外 FD 研修参加レポート・・・ p. 7
学生 FD チームの活動について・・・ p. 8-9
Interview 法科大学院に聞く～法科大学院における FD 活動～・・・ p. 10
教員の取組 Pick Up 法学部 通信教育課程～導入セミナーの創設と効果～・・・ p. 11

～FD 推進支援室からのお知らせ～

他大学との交流・・・ p. 11
FD 推進センター活動報告(平成 26 年 3 月～平成 26 年 7 月)・・・ p. 12
平成 26 年度 FD 推進センター組織・・・ p. 12

教育の「質の転換」をめぐる

学長 竹村 牧男

私立大学教育の根本は、創立者の「建学の理念」にあり、その精神を受けてそれぞれの学部・学科等において「人材養成の目的・教育目標」が策定され、その下にディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーが設定されます。このことの自覚の下に、具体的なカリキュラムとシラバスが作成されて、実際の授業が展開されます。

ここで重要なのは、これらの理念・目標等を、いかに授業の中で効果的に実現するかです。それには、授業の手法をも吟味することが大切でしょう。特に今日の大学教育に求められていることは、主体的に学ぶ姿勢の涵養、自学・自修の実践にあります。このことを実現していくには、予習や事後展開学習への積極的な取り組みを促し、授業においてディスカッションやディベートなどの双方向的な学修に習熟させ、あるいは教室外における体験学習の機会を豊かに与えるなどのさまざまな工夫が必要でしょう。特に海外に出て異文化を体験することは、学生に大きな刺激を与えるようです。このように、今日の大学には、従来の教育活動を学生の主体的な学びという観点から見直すような、教育の「質の転換」が大いに要請されています。

東洋大学は哲学教育を標榜していますが、この趣旨は、深く考える訓練を展開するということにあります。常識や流行、先入観や偏見にとらわれることなく、一段掘り下げて物事の本質を究明し、しかもそのことを現実の社会に生かしていけるのであればなりません。井上円了先生は、哲学には、「向上門(理論)」と「向下門(応用)」の二門がなければならないと言われましたが、それはすべての学問についても言えることでしょう。この学風がゆきわたることにより、東洋大学には主体的・能動的で、行動的な学生が育っているという評判を得たいものと思います。

そのために教員がなすべきことには多くのことがありますが、すべては学生の際立った成長のためであり、そのことに関与できることを教員として喜ぶべきだと思うのです。



「学生参加型 FD」

FD 推進センター長 神田 雄一

本学において学生 FD 活動を行う学生たちを、本年 4 月より「学生 FD チーム」と命名し、新たな活動が始まっている。しかしながら、規程上は学生に関して定めていないため、今年度において学生 FD チームの位置づけも含めた規程の改正を提案したいと考えている。学生は大学にとって最大のステークホルダーである。とするならば彼らの意見を、大学の組織としての意思決定に直接反映させるようなことは現状ではありえないが、彼らの視点からの様々な意見、提案等について耳を傾け、

教育改善に繋げていくことは重要ではないだろうか。本学における学生 FD 活動は黎明期であるが、昨年度末に開催された「学生 FD サミット」で見せた本学の学生を主体とした活動は他大学からの評価も高く、今後の大きなステップとなろう。「学生参加型 FD」においては、学生スタッフの確保や学生の主体性と教職員の関与の度合いなど課題もあるが、現状の活動を教員がサポートし、共に教育の質向上がなされるように「学生参加型 FD」を醸成しなければならない。

卒業時・新入生アンケート結果報告

学生の主体的な学びへの課題 ～FDの観点から～

本学では、大学全体及び各学部・学科のさらなる教育改善を図るため、全学統一の「卒業時アンケート」・「新入生アンケート」を実施しています。

ここでは、「平成 25 年度卒業時アンケート」及び「平成 26 年度新入生アンケート」の結果から、FD に関連する内容を抜粋してご報告します。

卒業時アンケート概要

実施日：平成 26 年 3 月 23 日

実施方法：マークシート用紙によるマーク及び記述方式

回答者数：5,216 名

回答率：85.0%

質問項目

- (1) 本学の志望順位は何位でしたか。
- (2) なぜ、東洋大学および所属学部・学科を志望しましたか。
- (3) 入学を決めた入試方式をお答えください。
- (4) 教養教育において、幅広い教養を身に付けることができましたか。
- (5) 語学教育において、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができましたか。
- (6) 専門教育において、専門的な知識・技能・態度を身に付けることができましたか。
- (7) ゼミナールや卒業論文・研究指導において、教員・学生同士で互いに学び合うことができましたか。
- (8) 興味・関心を持って、主体的・自律的に授業に参加することができましたか。
- (9) 4 年次における授業以外の、1 日あたりの学習時間はどのくらいですか。
- (10) 学習で悩んだ時、教員・TA からの学習の支援(アドバイス)を受けられましたか。
- (11) 授業以外で、大学で充実して欲しかった学習の支援にはどのようなものがありますか。
- (12) 大学生生活の目標を、明確に定めることができましたか。
- (13) 大学生生活で、興味や関心を持って取り組んだことは何ですか。
- (14) 海外研修・海外ボランティアに参加しことがありますか。参加した合計日数を選んでください。
- (15) 自分の就職活動およびその結果について、満足していますか。
- (16) 進路が決定するまでの大学としてのサポートで、有益だったのはどのようなことでしたか。
- (17) 就職に対する大学のサポートとして、より充実して欲しかったことは何ですか。
- (18) 大学生生活の中で、大切だと思ったことは何ですか。
- (19) 大学の建学の精神を知り、その内容を理解できましたか。
- (20) 所属学部・学科の教育目標を理解し、達成することができましたか。
- (21) 4 年間を通じて、以下(学士力)を身に付けることができましたか。
- (22) 東洋大学に満足していますか。
- (23) 所属学部・学科に満足していますか。
- (24) 大学の各種サービスに満足していますか。
- (25) 東洋大学および所属学部・学科で、他の人に誇りを持って薦められる、良い点はどのようなところですか。

(26) 東洋大学および所属学部・学科をより良くするために、改善が必要だと思うところはどのようなところですか。

概要と結果

「大学及び所属学部・学科に対する満足度」は、調査を開始した 3 年前より依然として、満足している・やや満足していると回答した学生が 90% を超えており、高い満足度が伺える一方で、「授業・学習への達成感」については、昨年度と比較して全体的に下降する結果となりました。

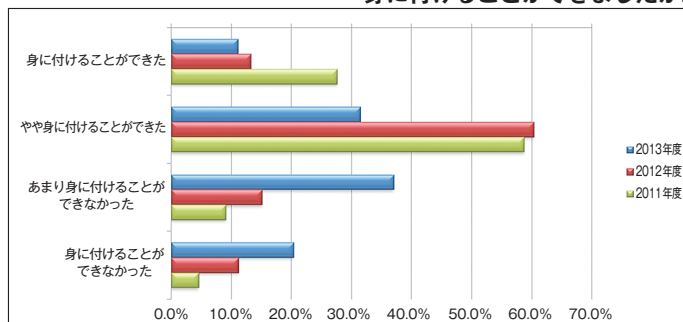
特に、「語学教育において、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができましたか」では下降の度合いが激しく、肯定的回答が昨年度の 73.6% から 42.6% に落ち込んでいます。学生からは「そもそも語学が苦手」、「自身の語学教育に対する意識が低い」との意見が聞かれる一方、「語学教育のレベルが低い」、「クラス分けをしてほしい」、「1.2 年次をみの必修となっており、語学教育の機会が少ない」等、より高いレベルの授業を望む声、継続した学習機会を求める声が数多く寄せられました。

グローバル化への社会的なニーズの高まりの中で、学生は、外国語科目の単位修得だけではなく、ひとりひとりが英語を使って自らをアピールすることや、留学やインターンシップ等の海外経験を求められるようになってきています。

語学教育に関しては、「グローバル人材の育成」という目標を掲げ、全学的にその充実に向けて取り組んでいるところではありますが、平成 24 年度より開始した全学 TOEIC 無料受験の実施によって、その達成度を客観的な外部テストで測ることができるようになりました。

また、専門科目を英語で学ぶ副専攻の設置、キャンパス英会話講座(学内語学学校)の開設、白山キャンパスの英語のみで留学生等とコミュニケーションを行うスペースである ECZ (English Community Zone)、学生が英語ライティング技術を身につけるための段階的指導を行うランゲージセンターの設置、海外留学促進奨学金制度の創設、短期・長期を含む海外研修・留学制度の拡充などに取り組んでいます。これらをさらに充実させる必要があるとともに、各学部においても、学生のレベルに応じた習熟度別授業をさらに展開していくことや、4 年間を通じて継続的に語学学習の機会を提供できるカリキュラムの編成、学部の特性に応じた教育プログラムの充実などによって、学生の自己達成感を高めていくことが必要です。

語学教育において、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けることができましたか。



新入生アンケート概要

実施日：平成 26 年 5 月 7 日～ 5 月 29 日

実施方法：ToyoNet-ACE（学内情報システム：携帯からの回答も可）

回答者数：4,486 名

回答率：62.0%

質問項目

- (1) 何を通じて、東洋大学および入学した学部・学科を知りましたか。
- (2) いつ頃、東洋大学および入学した学部・学科の受験を意識し出しましたか。
- (3) 東洋大学および所属学部・学科を志望したのはなぜですか。
- (4) 本学の志望順位は何位でしたか。
- (5) 東洋大学および所属学部・学科を志望したのはなぜですか。
- (6) 高校時代は、どのようなことに力を入れて取り組んできましたか。
- (7) 高校 3 年次、授業以外の、1 日あたりの学習時間はどのくらいでしたか。
- (8) 大学の「建学の精神」を知り、共感できましたか？
- (9) 所属学部・学科の教育目標を知り、理解できましたか？
- (10) 履修登録に際し、4 年間で授業科目をどのように体系化して履修していくかをイメージできましたか。
- (11) 大学生活で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか。
- (12) 自分の将来のために、4 年間でどのような力を身につけたいですか。
- (13) 現在、授業への出席日数はどのくらいですか。
- (14) 現在、授業以外の、1 日あたりの学習時間はどのくらいですか。
- (15) 大学に対して、もっと充実してほしいと感じることは何ですか。
 - 15-1. 授業について
 - 15-2. 学習支援について
 - 15-3. 学生生活について
- (16) 今後、不安なことはありますか。
- (17) 上記のほかに、東洋大学をよりよくするためのご意見・ご要望があれば教えてください。

概要と結果

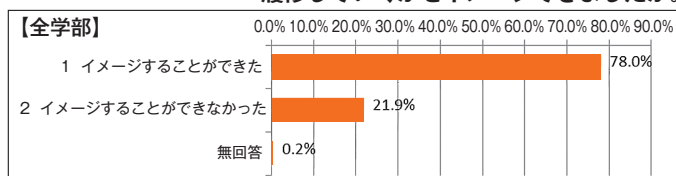
新入生アンケートの結果では、「履修登録に際し、4 年間で授業科目をどのように体系化して履修していくかをイメージできましたか」という問いに対して、イメージできなかったと回答した学生が 980 名（21.9%）いました。

この原因として、自由記述の中で、「履修登録の仕組みが分からない」「履修登録期間が短い」という履修登録の制度についての声もありましたが、一方で、「どのように科目を履修していけばよいのかが分からない」「科目間の関係がシラバス等からでは分からない」「現時点で 4 年間でイメージすることは難しく、体系化ということよりも自身の興味を優先した」といった意見も見られました。

このことを踏まえ、本学においても、平成 24 年 8 月 24 日の中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」で求められている「教育課程の体系化」（※ 1）が必要であろうと考えます。

このことについて、平成 26 年 8 月 1 日には、大阪大学教育学支援センターより佐藤浩章先生をお招きして全学カリキュラム委

履修登録に際し、4 年間で授業科目をどのように体系化して履修していくかをイメージできましたか。



員会と FD 推進委員会合同で「カリキュラムマップ作成に向けたワークショップ」を開催しました。ワークショップには、35 学科の計 119 名の教員と、教務系職員 34 名が参加し、現行のカリキュラムにおいて、各学科のカリキュラムマップを作成し、その体系的性を検証しました。

現在、検討を進めている平成 28 年度以降の新カリキュラムにおいても、各授業科目の役割や難易度、授業科目間の関係性、自分の目標に必要な能力を身につけていくためにどのように授業科目を選んでいけばよいのか等を、学生に明示していく必要があります。

授業以外の学習時間について（両アンケート結果より）

最後に、両アンケートの共通設問として設定している「授業以外の 1 日あたりの学習時間」についてご紹介します。

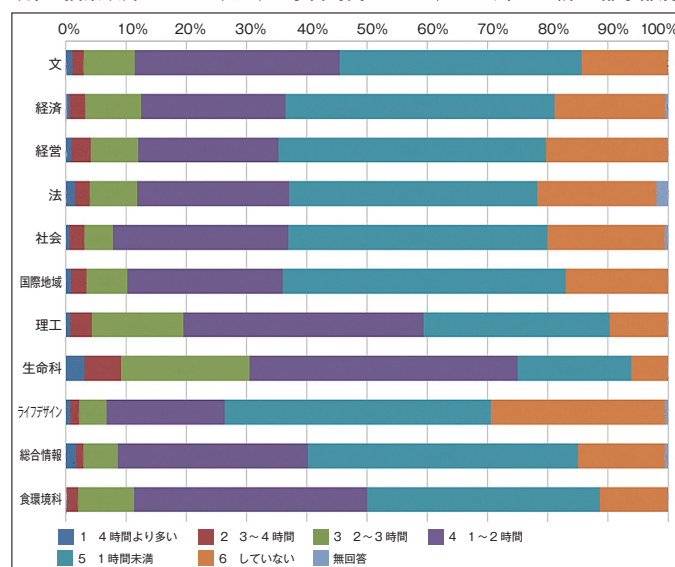
回答としては、1 年次でも 4 年次でも「1 時間以内」と回答する学生が最も多くなっており、学生がいかに質・量の伴った学習をしていくかが、全学的なそして日本の大学教育全体の課題となっています。

しかし一方で、このような全体的な傾向に対して、学部間で回答に開きもあり、新入生アンケートでは、「1 時間以上学習している」と回答した学生が、生命科学部で 74.9% と多い反面、ライフデザイン学部では 26.4% しかいません。また、卒業時アンケートでも、学部間の差は縮まるものの、「1 時間以上学習している」学生は、生命科学部で 54.3% と 5 割を超える一方、社会学部では、37.3% という数字になっています。

これらについては、全学としても学修支援室の整備、ラーニング・コモンズの設置などに取り組んでいますが、各学部そして各授業レベルにおいても、到達目標の明確化や成績評価の厳格化などによって、学生の授業の事前・事後学習を促していくことが必要です。

【平成 26 年度新入生アンケート】

現在、授業以外の、1 日あたりの学習時間はどのくらいですか。（第 1 部学部別）



※ 1 教育課程の体系化

大学、学部、学科の教育課程が全体としてどのような能力を育成し、どのような知識、技術、技能を修得させようとしているか、そのために個々の授業科目がどのように連携し関連し合うかが、あらかじめ明示されること。なお、大学としての学位授与の方針に対して授業科目数が過多であったり、科目の内容が過度に重なっている場合は、その精選の上に体系化が行われる必要がある。

また、科目を履修する学生をはじめ、当該大学、学部、学科等が提供している教育課程の内容に関心を持つ全ての人に教育課程の体系が容易に理解できるように、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号をつける（ナンバリング）など、教育課程の構造を分かりやすく明示する工夫が必要である。（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」より）

平成 26 年度 TA(ティーチング・アシスタント)FD 研修会

研修部会長 尾崎 晴男(総合情報学部 教授)

開催日時: 平成 26 年 4 月 19 日(土) 13:00 ~ 15:00

会場: 白山キャンパス 3 号館 1 階 ナレッジスクエア

川越キャンパス 2 号館 1 階 2107 教室

板倉キャンパス 2 号館 1 階 2108 教室



白山キャンパス



川越キャンパス



板倉キャンパス

年度初めの恒例となる TA(ティーチング・アシスタント)FD 研修会を、4 月 19 日(土)の午後に開催しました。教育補助員として携わる授業の特性やグループワークを含む研修の効果を考慮して、今年度は白山・川越・板倉の 3 会場で実施しました。大学院生の TA のみならず、学部生の SA にも受講させたいとの要望をいただき、TA78 名、SA32 名、合計で 110 名の参加がありました。

研修のねらいは、教育補助員として着任する際に配付される「FD ハンドブック」の内容を、自ら考えながら理解することに置いています。2 時間の研修メニューは各会場で同じものとしており、まず TA 制度の概要を SA も考慮しながら FD 推進委員から解説し、東洋大学における教育補助の意義を改めて理解させていま

Program

1. 開催挨拶
2. 講演「TA 制度の概要(川越・板倉キャンパス)」
「FD と TA の役割について(白山キャンパス)」
3. グループ討論
4. 発表・質疑応答
5. 講評・閉会挨拶

す。次に、TA の制度や心得ておくべき事項の確認、TA の業務のポイントとなる事項や実際に遭遇しうる事例への対応について、研修生それぞれが考えるワークシートを用意しました。自らの考えをもとに数人のグループの中で意見交換を行い、さらに各グループからの全体発表を通じて討議を深める、参加型学習の方法を採っています。

研修を受講した後に行ったアンケートの結果では、「大学教育に携わる難しさと重要性について学び、より一層の努力をしなければ」、「様々な価値観を持った人たちと交流ができて、思っていたよりも有意義」、「またこのような機会があれば参加したい」、などの積極的な反応が多数あり、成果は上がったものと思われます。一方で、「常識的な内容である」、「ワークシートの言い回しがわかりにくい」、「時間が短かった」、などのコメントも見られましたので、改善に生かしたく考えています。

FD 推進委員会では、「FD ハンドブック」を SA にも対応できるように改訂を検討しています。教育補助員のより効果的な活用による授業の充実を目指し、今後も TA・SA の研修を企画していく予定です。

平成 26 年度 新任教員 FD 研修会

開催日時: 平成 26 年 7 月 5 日(土) 14:30 ~ 19:00

会場: 白山キャンパス(1 号館 3 階 1307 教室)

対象: 平成 26 年度新任教員



学生 FD チームからの発表



グループディスカッション



代表者報告(まとめ)の様子

新任教員を対象とした FD 研修会は平成 19 年度より実施しており、今年度も、着任後 3 ヶ月を経過した平成 26 年 7 月 5 日に開催された。その目的は、本学の教育理念に基づく教育活動から FD への取組みについて理解し、日頃の教育研究活動に役立てること、新任教員間や先輩教員間との親睦を深めること、学校法人東洋大学の一員としての認識を共有することである。

本研修会を企画・運営された研修部会の尾崎部会長の司会のもと、神田 FD 推進センター長より、開会挨拶及び「東洋大学における FD の取り組み」と題した講演がなされ、平成 23 年度から実施している卒業時アンケート等のデータを踏まえた本学の FD 活動の紹介がなされた。

その後、3 部構成の研修会プログラムの第 1 部「学生 FD チームからの発表及び意見交換」が実施

Program

1. 開会挨拶
2. 講演「東洋大学における FD の取り組み」
3. 【第 1 部】学生 FD チームからの発表及び意見交換
「学生と教員が共につくる授業」
【第 2 部】事前アンケートの事例報告
【第 3 部】グループディスカッション
グループディスカッション内容の発表・質疑応答
4. 総括・閉会挨拶

された。テーマは「学生と教員が共につくる授業」で、学生 FD チーム代表者 3 名が、多くの学生が SNS などのツールを使った授業方法や双方向型の授業を望んでいるという学生の声などを紹介した。質疑応答では、「学生側の意識改革はどうか?」を始めとした、予定時間を上回る議論が交わされた。

第 2 部では、尾崎部会長より参加者が事前回答していた「着任後約 3 ヶ月間経ち授業を進める上で感じたこと、苦心していること、他の先生の工夫で知りたいこと」のアンケートに基づく報告がなされた。続く第 3 部では、新任教員に研修部会のファシリテーターを加えた 6 ~ 7 名のグループに分かれ、第 2 部の内容を受けたグループディスカッションが行われた。教育分野や教育歴の異なる教員同士、お互いの「教育観」等も含めた熱い議論が交わされた。

まとめとして、各グループの代表者によるグループディスカッションの報告が行われ、プログラムは盛況のうちに終わるとともに、親睦も深められた。

平成 26 年度 教育改善シンポジウム 「学修支援室の活用とアクティブ・ラーニングの実践事例」

教育改善対策部会長 千明 誠（経済学部 准教授）

開催日時：平成 26 年 7 月 19 日（土） 13：00～15：50

会 場：白山キャンパス 学修支援室・5104 教室

Program

1. 開催趣旨

2. シンポジウム

①学修支援室の機器を活用したアクティブ・ラーニング体験

②大教室を利用したアクティブ・ラーニングの事例発表

3. 総括・閉会挨拶

て、日本人には討議力・対話力・社交性が不足しているとの問題意識を持ち、学生がそうした力を身につけるためにアクティブ・ラーニングを実践している。具体的な授業方法については、授業風景の VTR や授業で使用する資料を用いて、BRD(Brief Report of the Day)、LTD(Learning Through Discussion)の方法を、特に大人数クラスで実践する場合の工夫について説明していただいた。質疑応答では、参加者の実践報告もあり、活発に意見が交換された。大人数に対する BRD は教員にも負荷がかかる方法であるが、今村先生の方法はたいへん参考になった。

アクティブ・ラーニングに関するアンケートの中間報告の後、神田雄一 FD 推進センター長の総括・閉会挨拶によってシンポジウムは終了した。参加者からも大変参考になったとの意見が寄せられた。来年度のテーマ設定および参加者増加対策については、今後の検討課題としたい。



学修支援室の機器を活用した
アクティブ・ラーニング体験



大教室を利用したアクティブ・ラーニング

7月19日(土)に白山キャンパスにおいて平成26年度教育改善シンポジウムを開催した。「学修支援室の活用とアクティブ・ラーニングの実践事例」をテーマとして、前半は今年3月に開設された学修支援室の利用方法の体験を学修支援室において、

後半は大人数教室でのアクティブ・ラーニングの事例報告を大教室において実施した。

杉山憲司副学長に開催挨拶・趣旨説明をいただいた後、ファシリテーターに小山誠之氏（パワープレイス株式会社）をお迎えして、学修支援室の機器を活用したアクティブ・ラーニングを体験した。初めに、小山氏より一斉講義型授業の問題点、アクティブ・ラーニングに期待される点（課題発見力・解決能力、実践力）、他大学での事例（同志社女子大学、小樽商科大学、敬愛大学）について簡単なレクチャーがあり、次に参加者が4つのグループに分かれて「東洋大学キャンパスに新しい学びの環境を創るとしたら!？」というグループワーク課題に取り組んだ。グループ毎に場所を移動して議論を深めた後、各グループがプレゼンテーションを行い、図書館の改革（2グループ）、教室の改革、カフェスタイルの空間新設の4つが提案され、教室の改革が最も多くの支持を集めた。短い時間であったが、参加者は学修支援室を利用したグループワークの手順について理解することができた。質疑応答では、使用機材の詳細や他の教室に設置する場合について質問・要望が寄せられた。

コーヒーブレイクをはさんで、後半は今村肇先生（経済学部教授）より大教室を利用したアクティブ・ラーニングについて報告をいただいた。今村先生は、国際的な活動を通じ

平成26年度 教育改善シンポジウム
**学修支援室の活用と
アクティブ・ラーニングの実践事例**

日時：平成26年7月19日(土) 13：00～15：50
会場：白山キャンパス 学修支援室・5104教室
対象：本学教職員(非常勤講師の方々も参加可能です)

プログラム 司会 千明 誠(経済学部准教授)

1.開催趣旨 13：00～13：05 神田雄一(FD推進センター長・副学長)

2.シンポジウム
①13：05～14：35 学修支援室(3号館1階ナレッジスクエア内)
学修支援室の機器を活用したアクティブ・ラーニング体験(90分)
ファシリテーター 小山 誠之氏 パワープレイス株式会社
＜移動・コーヒーブレイク＞14：35～14：55
※5104教室にてコーヒー・スイーツをご用意しております。
②14：55～15：35 5104教室(5号館1階)
大教室を利用したアクティブ・ラーニングの事例発表(40分)
今村 肇(経済学部教授)
＜質疑・応答＞15：35～15：45(10分)

3.総括・閉会挨拶 15：45～15：50 杉山憲司(副学長・教務部長)
※参加希望者は7/14(月)までに、mifdshien@toyo.jpへ
お申し込みください。

問い合わせ先：FD推進支援室(白山キャンパス8号館8階) 渡辺・宮村・木下
TEL：03-3945-7110 E-mail：mifdshien@toyo.jp

FD活動紹介

春学期 各学部等の主な FD 活動一覧(平成26年4月～平成26年7月)

4月23日(水)	第1回板倉 ToyoNet-ACE (授業支援システム)講習会 (生命科学部・食環境科学部・生命科学研究科)	6月10日(木)	第2回板倉 ToyoNet-ACE (授業支援システム)講習会 (生命科学部・食環境科学部・生命科学研究科)
5月8日(木)	ToyoNet-ACE(授業支援システム)講習会 (理工学部・総合情報学部)	6月25日(水)	【講演会】研究倫理教育の実際と課題 (生命科学部・食環境科学部・生命科学研究科)
5月15日(木)	ToyoNet-ACE(授業支援システム)講習会 (理工学部・総合情報学部)	6月28日(水)	学生との意見交換会(ライフデザイン学部)
5月15日(木)	ToyoNet-ACE(授業支援システム)講習会 (国際地域学部)	7月9日(水)	【講演会】大学におけるハラスメント 防止に向けて (ライフデザイン学部)
5月26日(月) ～6月6日(金)	授業参観期間(法科大学院)	7月9日(水)	【講演会】アカデミック・ハラスメントに 関する講演 (生命科学部・食環境科学部・生命科学研究科)
6月3日(月)	新任教員を交えたFD学習会(法学部)	7月16日(水)	【講演会】職場のハラスメント防止について (文学部)

文学部における FD 研修会の報告

■■■

長谷川 勝久(文学部 教授)

文学部では、自己点検・評価委員会が学部のFD活動の計画・立案を行っている。本年度の春学期には、「職場のハラスメント防止について」というテーマで、7月16日(水)、14時40分から15時40分の1時間、2号館16階スカイホールにて弁護士の中重克巳氏を講師に迎え、研修会を実施した。内容は、セクハラ、パワハラの定義から始まり、ハラスメント問題における次の4点について、具体的な事例を交えながら講演が行われた。

1. ハラスメント問題の相対性

相手の意思に反するか否か。

2. ハラスメント問題の多義性

事実概念としてのハラスメント、雇用管理概念としてのハラスメント、法概念としてのハラスメントの3つの場面が想定でき、それぞれの場面でハラスメントが成立するための要件が異なること。

3. ハラスメント問題の新潮流

ハラスメントに関する標準的な考え方はこれだという段階には至っていないので、最新の新聞やニュースの報道に敏感になることが大切。

4. ハラスメント問題の対策

円滑なコミュニケーションの取れた職場環境を作ることが大切。本研修会を通して、職場のみならず、学生に対する対応等についても十分留意する必要があることを学ぶことができた。

秋学期は、9月24日(水)、14:40から16:10の1時間半、聖心女子大学の杉原真晃先生を講師に迎え、「アクティブ・ラーニングの理論と実践-授業づくりとカリキュラム開発の視点から-」というテーマで研修会を行う予定である。



平成26年度 板倉キャンパス FD 講演会 「増大するアカデミック・ハラスメント相談案件」

■■■

藤澤 誠(食環境科学部 准教授)

板倉キャンパスでは、毎年複数回のFD講演会を食環境科学部、生命科学部、生命科学研究科が共同で実施している。6月25日にはAE海老名・綾瀬法律事務所の中道徹先生による講演会「研究倫理教育の実際と課題」を、7月9日には首都大学東京の理事で副学長の江原由美子先生による講演会「増大するアカデミック・ハラスメント相談案件」を開催した。今回は、アカデミック・ハラスメント(以下「アカハラ」)の講演会で気付いた点などを報告する。

まずは、相談件数の多さである。複数の大学のアンケート結果から、学部生の数%、大学院生の10～20%がアカハラを経験していると推測されている。しかしながら、加害者側にはアカハラをしたとの意識はない、または、低い場合があり、注意が必要である。背景として、「教員側は親しさを感じていても、学生側はそうでもない、あるいはその逆」ということがある。一方で、アカハラ相談所への相談件数が多いことは、その相談所が学生や教職員にきちんと認知され、機能していることを示す。そのため、相談件数が増加することはとりえずプラスに評価してよいようである。以上のことから、大学が健全であるためには、①個々の教職員がアカハラに対する高い意識を持つこと、②事案が発生した際には早い段階で正規のルートで解決することが重要といえる。

今回、江原先生には大変お忙しいところ、しかも全く面識がなかったにも関わらず、快くお引き受け頂きました。ただただ感謝するばかりです。この場をお借りして御礼申し上げます。



川越キャンパスのFD活動報告

—総合情報学部と合同開催のToyoNet-Ace講習会について

■■■

和田 昇 (理工学部 教授)

去る5月8日(木)と5月15日(木)に、川越キャンパスにおいて、情報システム課との共催でToyoNet-Ace講習会を三度に分けて(8日に一回、15日に二回)行った。理工学部の教員が54名(内、非常勤講師が2名)、総合情報学部の教員が15名、参加した。現在、常勤の教員数は、理工85名、総情34名なので、川越キャンパスの教員の半数以上が参加したことになる。



ToyoNet-Aceは、インターネットを利用した様々な形式での「学び」を可能にしたシステム(朝日ネットのmanaba courseを利用)で、東洋大学ではすでに多くの教員が利用している。

今回の講習会は教員の皆さんに参加申請をしていただき、各教員の「マイページ」に「川越講習会コース」のフォルダーを事前に作成し、講習会中に教材にアクセスするという形態をとった。「プロフィール設定」や「コース設定」等の基本的な設定の仕方から始まり、「小テスト」、「アンケート」、「レポート」などの利用方法の説明がなされた。

特に、「出席カード」の発行の仕方、集計方法は参加者の興味を引いたようだ。簡単に出席・欠席を確認でき、また、授業中にアンケートや小テストを実施しその結果を即座にグラフ等で表示ができる利便性は特筆すべきである。教室にいらなくても「出席」とするような不正の可能性や、利用できる携帯・スマホを全ての学生が持っていないなどの問題点はあるが、今後、「出席カード」は多用されると考えられる。

このような講習会が適時開催され、より一層のToyoNet-Aceの多角的な利用が望まれる。

平成26年度FD推進ワークショップ(専任教職員向け)に参加して

テーマ: 高校生が大学1年生に成長するために～高等学校教育との円滑な接続と大学教育の質的転換～

■■■

三浦 健 (生命科学部 准教授)

現在、「高大連携」が重要視(問題視)されている。「高校生が(を)大学生になる(する)」ためのプログラムである。FD講演会で「学生のモチベーション&学力をどの様に向上させるか?」がよく話題に上るが、準備&スタートが重要となる。まず「事前教育」による準備である。各大学で基礎学力アップが様々な方法で行われている。最も熱心な大学



では、推薦入試での合格者に対して課題を出し、2、3月に5日間ほど、全国から大学に来てもらい講義&試験(1単位を認定)を行っている。入学後、試験結果が悪い学生には専属の学生チューターをつけて、勉強会などをしてフォローしている。その結果、留年生が半分ほどになった報告もあった。また、「初年次教育の重要性」がある。これは、大学全体で共通の認識が必要かもしれない。多くの大学が全学部において、共通の「初年次教育科目」を開講している。そこで、大学生のポリシーから始まり、「愛校心」&「ノート&レポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」などが教員だけでなく、職員、OB & OGが協力し合って行われている。その際、共通のテキストを使用している。その上で、各学科で「基礎科目の強化」がなされている。そこで、自校教育を兼ねた既存の「井上円了と哲学」などを初年次必修科目として開講、ホームカミングデーなどでのOB・OGとの会話(イベント企画)を増やすことで自分の目指すところが明確となり、モチベーション向上&維持が期待できるのではないかと考える。

ライフデザイン学部「ハラスメント防止にかかわる講演会」

■■■

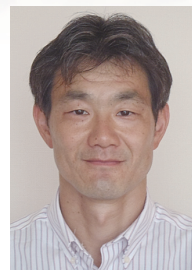
金子 元彦 (ライフデザイン学部 准教授)

ライフデザイン学部では2014年7月9日(水)13時30分～15時に講義棟306教室において、「大学におけるハラスメント防止に向けてーアカデミックハラスメント・セクシュアルハラスメントの現状と対策ー」と題した教職員対象のFD講演会を開催した。

講演会は本学の顧問弁護士事務所である「山田・尾崎法律事務所」の弁護士 数本義之先生を講師に迎えて開催し、学部長、各学科・専攻長および、FD推進委員ならびに、FD担当事務課職員らを中心として多くの教職員の参加があった。

さまざまなハラスメントが存在する今日であるが、今回の講演会では、特にアカデミックハラスメントおよび、セクシュアルハラスメントに焦点を当て、それらのハラスメントによって生じる法的な問題について、実際の裁判例や処分例等を具体的に取り上げてお話いただいた。数本先生の講演を通じて、教職員各人のハラスメント問題に対する現状認識がより確かなものになるとともに、今後の対策について検討するための問題提起もしていただけたものと感じている。

大学はもとより今日の社会においては、公正かつ、透明な組織運営や業務遂行が強く求められることから、各種ハラスメントの防止は不可避の問題と考えられる。今後もライフデザイン学部FD推進委員会として、こうした講演会・研修会を継続的に開催できるよう注力していきたいと考えている。



平成26年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に参加して

■■■

児島 伸彦 (生命科学部 教授)

東洋大学に着任して1年となる私の教員歴は前職を含めると9年目を迎えすでに新任とは言えないが、この度新任教員向けの授業改善を目的としたFDワークショップ(8月7-8日の日程で浜松



後列右から2人目が児島教授

グランドホテルにて開催)に参加させていただいた。

ワークショップは全体説明、パネルディスカッション、グループディスカッションおよび模擬授業という構成で実施された。パネルディスカッションでは、昨年度の参加者代表3名により、ワークショップ参加後に行った授業の改善策や実践例が紹介された。その後、大学や分野の異なる7名からなる小グループに分かれ、各々が現在抱えている問題を出し合い、解決策などを活発に議論した。具体的に挙げた問題は、双方向授業の難しさ、学生の私語や居眠りへの対処、コミュニケーション障害者への対応などである。翌日は、前日の1時間で各々作成した授業案をもとに順番で15分間の模擬授業を行った。授業の原点に立ち返って使用できるものはホワイトボードとペンのみであった。聴く側はその授業で良かった点7割および改善点3割の講評をまとめた。まだ着任してから1年も満たない新任教員が堂々と立派な授業をしており、とても刺激になった。

このワークショップに参加して、授業は経験年数を問わず、日頃の向上の努力が必要だということを実感した。また、今後新任に限らず、専任教員対象に授業のスキルアップを目的としたワークショップの企画があっても良いと思った。

平成26年度春学期 学生FDチームの活動について

FD 推進センター学生FD チーム代表 中川 靖菜（経済学部経済学科3年）

私たちは、学習者の目線に立った教育改善に向けた取り組みをしております。2014年度の春学期は、履修制度に関する改善提案の作成、新任教員FD研修会での意見発表、「履修のお悩み相談コーナー」、「学び」セミナー、「自身思考を再考するワークショップ」、オープンキャンパスでの受験生を対象とした学生トークライブの開催といった活動に取り組みました。今回は、履修制度に関する改善提案の作成、「履修のお悩み相談コーナー」の開催の2点についてご紹介します。

履修制度に関する改善提案の作成では、学生目線で履修制度における抽選・登録期間の検討に重点を置いています。9月上旬にToyo-Net G上で行った学生へのアンケートの結果を踏まえて、学生FDチームで更に検討し具体的な改善提案を提出します。本取り組みは、全学生や多くの教職員に関係するシステムを対象としているということを充分に考慮した上で、慎重に進めていきたいと考えています。学生の学びへの意欲を向上させるために、学生の意見を取

り入れた履修制度の改善提案が活かされることを望んでおります。

「履修のお悩み相談コーナー」は、2014年4月4日（金）に、白山キャンパス3号館1階ナレッジスクエア内にて開催しました。学生FDチームのスタッフが、履修やこれからの大学生活に悩む新入生の相談に乗ることにより、新入生のこれからの学びをサポートすることを目的としました。当日は新入生を中心に40名の学生が来場しました。履修に関する説明だけでなく、学生の視点を活かしたおすすめの授業の紹介や、留学制度や留学に関する授業、教職課程の履修についての相談も行いました。また、履修相談を行う際は、主催者の私たちが各授業やカリキュラム、および履修制度について詳しい情報を把握しておかなければなりません。そのため、今後の活動を通して学生目線でおもしろいと感じる授業を調査、研究して、学生FDチーム全体で共有することが必要だと考えています。最終的には、学生目線で授業についてまとめた情報を多くの学生に発信したいと思っています。これからも、学生FDチームのスタッフで力を合わせて、学生の学びの質向上に繋がるこのような取り組みを更に発展させたいと考えております。



履修のお悩み相談コーナー & 「白バス」 観覧会



履修のお悩み相談コーナー（ポスター）

中川 靖菜（経済学部経済学科3年）

今年度、私は代表としてチームをまとめることに注力してきました。未だにメンバーに頼ることが多々ありますが、一緒に頑張ってくれるみんなに感謝しています。今後もチーム一丸となって、精一杯活動に取り組みます。

曾根 健吾

（大学院文学研究科 教育学専攻博士前期課程2年）
東洋大学の学生FD活動は、活動開始から5年目をむかえました。学生FD活動が教育の質保証に繋がるよう、最後まで力を尽くしていきたいと思っています。

石井 俊輔（国際地域学部国際地域学科3年）

教える専門家ではない、解き明かす専門家が学術教育の最高機関である大学で教育活動を行うという、高校までとは違う教育のあり方に関心があり、学生も教職員も気持ちがいい大学教育を目指して学生FD活動をしています。

森山 奈那

（文学部英語コミュニケーション学科4年）
学生の授業や学びに対する意見を教職員に届ける立場として、学生・教員・職員三者の架け橋となり、より良い学びを目指し学生FD活動を頑張っています。

川村 雅俊（文学部教育学科3年）

今年は履修制度の企画に力を注いでいます。授業を内側から変えていきたいと思っています。学生の皆さんの意見が必要です。気軽に意見を聞かせてください。

学生FDチームメンバーより一言

大森 優也（文学部教育学科3年）

日々、東洋大学の教育システムや、教育そのものに興味を持つようになり、この活動を通して主体的に考えるようになりました。



齊藤 克弥

（社会学部第2部社会学科2年）

今年度は学生FDチーム副代表を務めております。学生の目線に立ち授業改善に取り組んでいます。そして2部生として1部生とは違う立場や視点で東洋大学を見つめ、改善に取り組んでいきたいと思っています。

柏木 都萌美

（文学部哲学学科2年）

学生が学ぼうという気持ちをアシスト出来るような環境を作りたいです。また、自分自身もいろんな交流などを通して成長していきたいと思っています。

加藤 渚（経営学部経営学科2年）

今年度から学生FDスタッフとして活動している加藤です。まだまだ未熟な面もありますが、自分にできることを精一杯やっていきたいと思っています。

戸田 裕貴（経済学部総合政策学科3年）

経済学部3年の戸田です。5月から学生FDスタッフになりました。趣味は散歩やスイーツを食べること、そして何より銭湯に行くことです！「戸田なくしてFD存在せず」の精神で頑張ります。応援よろしくお願いします！

林 大翔（法学部企業法学科3年）

法学部企業法学科3年の林大翔です。今年度から学生FDスタッフとして活動しています。皆さんが卒業するときにこの大学で良かったと思えるような様々な取り組みに挑戦していきたいと思っています。

岩堀 伸哉（社会学部第2部社会学科2年）

同じ学科だった齊藤さんの誘いもあって、今年から学生FD活動に参加しています。未熟者で至らない箇所も多々ありますが、さまざまな立場の人の意見に耳を傾けていきたいと思っています。普段は街歩きをよくします。

宇野 浩太郎（経営学部マーケティング学科1年）

経営学部マーケティング学科の宇野です。学生FDスタッフとして、ワークショップやしゃべり場の企画・運営を通して、より多くの学生が主体性を持てる学びや学習環境づくりをしていきたいです。

「学生FDサミット2014春」開催報告

学生FDサミット2014春実行委員会事務局長 曾根 健吾（大学院文学研究科教育学専攻）

開催日時：2014年3月8日（土）・9日（日）

会場：白山キャンパス1号館，5号館，6号館

主催：学生FDサミット2014春実行委員会（事務局：東洋大学）

共催：東洋大学FD推進センター

協力：法政大学教育開発支援機構FD推進センター
青山学院大学全学FD委員会

2014年3月8日（土）・9日（日）の2日間、白山キャンパスにおいて「学生FDサミット2014春」（全体テーマ：あなたが作る、大学最高大作戦－めざせ意識改革－）を開催した。全国で学生FD活動に取り組む学生、教職員が一同に会する学生FDサミットは、今回が東日本では初開催であり、約75団体、2日間で延べ620名の参加者数となった。

1日目は、オープニングセレモニーの後、「学生FD概論Ⅰ」と題して、参加者同士のワークを交えながら学生FD活動のあゆみやFDとは何かについての共通理解を図るセッションを行った。次に、関東圏で学生FD活動に取り組む大学の2校（日本大学文理学部、筑波大学）から、学内で力を入れている取り組みの紹介があった。参加者からは広報手段や予算面など、多くの質問がなされた。

1日目の午後は、参加者が自分で参加したいセッションを選び参加する自由な学びの場として「分科祭の部」を設け、6つの分科会を企画した。精力的に学生FD活動に取り組む大学には、「学生FD戦略論」と題して広報活動のコツや、学生発案型授業の概要などをお話いただいたほか、会場校企画では大学の認証評価機関の方々においでいただき、学生向けに認証評価の概要や学生が見るべきポイント、質保証への学生参画の動きなどを紹介していただいた。

1日目終了後には6号館地下食堂にて懇親会を行い、参加者同士が親交を深めた。



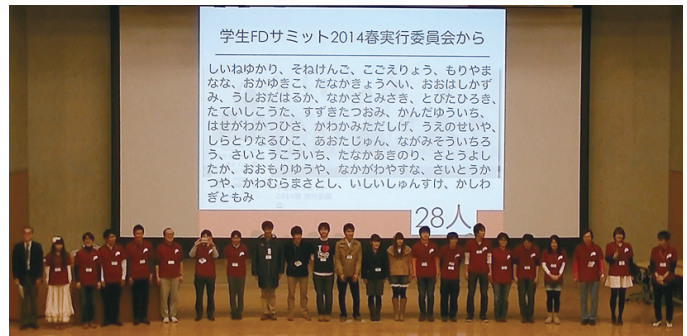
1日目 分科祭の部アクティブ・ラーニングを体験する分科会の様子



2日目 学生・教職員合同テーマ別しゃべり場の様子

2日目は、参加者が事前にしゃべりたいテーマを選んで参加する「テーマ別しゃべり場」を企画した。しゃべり場では「学生FD活動の取り組みを考える」「学生FD活動について」「大学教育を考える」「大学生論」の4つをテーマとして設けた。しゃべり場の後は、しゃべり場での成果報告会をテーマごとに行った。各グループとも模造紙などにしゃべり場での内容をまとめ、白熱した発表が多く見られた。

しゃべり場の後は、参加者が所属大学ごとに別れワークシ



2日目 エンディングでの実行委員一同のあいさつ

トを用いてサミットを振り返り、自大学を最高の大学にしていくための作戦を練る場を設けた。

ファイナルセッションでは、「学生FD活動の方向性を問う」と題して、学生FD活動の抱える課題と今後の方向性を整理した。日本大学の今宮加奈未氏は、学生の立場から学生FD活動は成果が出るまでに非常に時間がかかると指摘し、立命館大学の沖裕貴教授からは学生FDスタッフは今後「専門性」を高めていく必要があるという主張がなされた。参加後のアンケートでは、「他大学の学生と交流できたことが、とても刺激になった。たくさんの刺激を受けた。（学生）」「学生FD活動、学生FDサミットのあり方について改めて考えさせられた。（職員）」という声が聞かれた。

本サミットは他大学からも学生実行委員、教職員応援隊を公募して実行委員会を組織し、半年間の時間をかけて準備を行い、多くの方のご協力をいただいたことに感謝の念で一杯である。このサミットでの成果は今後積極的に活用していきたい。

なお、本サミットの詳しい内容は、開催報告書としてまとめFD推進センターホームページに掲載してありますのでご覧いただければ幸いです。

1日目：3月8日（土）

9:30～10:00	参加受付（1号館1階1102教室前）
10:00～10:20	1日目オープニング（1号館1階1102教室）
10:20～10:50	学生FD概論Ⅰ
10:50～11:35	今が旬！学生FD活動取り組み紹介
11:35～11:45	ワーク②（自大学分類など）
11:45～12:00	午後の案内ガイダンス
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～16:50	分科祭の部（1号館各階教室）
16:50～17:00	2日目の連絡など（1号館1階1102教室）
17:15～19:00	懇親会（6号館地下1階食堂）

2日目：3月9日（日）

9:00～9:30	参加受付（5号館地下2階井上円了ホール前）
9:30～9:50	2日目オープニング（5号館地下2階井上円了ホール）
10:00～11:50	学生・教職員合同テーマ別しゃべり場（6号館各教室） テーマA：「学生FD活動の取り組みを考える」 テーマB：「学生FD活動について」 テーマC：「大学教育を考える」 テーマD：「大学生論」
12:00～12:45	学生・教職員合同テーマ別しゃべり場 成果報告会
13:00～14:15	自大学の大学最高大作戦、グループワーク
14:30～15:35	ファイナルセッション（5号館地下2階井上円了ホール） 「学生FD活動の今後の方向性を問う」
15:35～16:00	サミットエンディング

Interview 法科大学院に聞く ～法科大学院におけるFD活動～

佐藤 修一郎(法科大学院 教授) 聞き手 宮原 均(FD推進委員・編集部会長)

本企画は、FD推進委員・編集部会長である宮原法学部教授をインタビューとし、各学部・研究科等のFD活動について、代表者と対談を行うものである。

今回は法科大学院での特色あるFD活動について、佐藤修一郎教授にお話を伺った。

宮原： 佐藤先生、お忙しいところ時間をとっていただき恐縮でございます。今日は法科大学院のFD活動ということでお話を伺いたいのですが、まず、法学部生を対象に「法律学習会」を開催されていますね。

佐藤： こちらこそ、どうもありがとうございます。「法律学習会」は、裁判官等の経歴を有する実務家教員が担当しています。主として1年生を対象とする「初学者コース」、3、4年生中心の「経験者コース」があります。

宮原： 同じ法律科目ということで、「法学部の授業との差別化」はどのように考えておられますか。

佐藤： 実務家としての経験に照らした、法律条文・裁判例の理解というのが一番のメリットです。普段、文献の中でしか見ることができない裁判例等を、実際に担当した教員から解説してもらうことは大いに参考になると思います。また、法律家という仕事を具体的な職業として意識してもらうことは、学部生にとってはキャリア教育としても役立つと思います。

宮原： 大変興味深い学習会のようですね。また、費用もかからず、受入受講者数にも余裕があるということですので、学生への周知をいっそう徹底できればと感じます。ところで、法科大学院では、学部教員にも開放した「授業参観」を実施していますね。

佐藤： 授業参観も、月1回、法科大学院の全専任教員が参加して行う「全体FD」の一環です。各期に1回設定される授業参観期間中に全教員が参観を行い、参観結果を報告書にまとめ、その報告書を基に授業改善を図るものです。

宮原： そのほかのFD活動について、もう少し詳しくご説明いただけますか。

佐藤： 法科大学院は、少人数制です。そこで、院生には「指導教員(担任)」がつきます。指導教員は、学期始め、学期途中そして学期終了時に担当学生と「面談」を行います。この面談を通して、学習計画を提出させ、その進捗状況をチェックし、その改善等を生活指導も含めてアドバイスします。

宮原： 非常にきめ細かい指導ですが、全体FDとはどのようにリンクさせているのですか。

佐藤： 指導教員は、これらの指導と「学習カルテ」に基づいて「総合所見報告書」の原案を作成します。「学習カルテ」とは、各教員の担当学生が当該学期中に履修したすべての科目について、科目ごとに学習状況を記したデータです。「総合所見報告書」の原案は、全専任教員が参加する「カンファレンス」と呼ばれる会議において、全学生について検討されます。そして、「カンファレンス」の結果を受けて修正された「総合所見報告書」と「学習カルテ」が、学生

に交付されます。

宮原： 法科大学院では、司法試験の合格という結果が求められると思いますが、これについて特別な指導等は行っていますか。

佐藤： 上述の活動すべてが司法試験を意識してのもの、といっても過言ではないのですが、「期末試験」は厳格な成績評価や、その積み重ねである進級・修了にかかわるものとして、また、最終的には司法試験の合格につながるものとして重視しています。まず、7月と1月には、全体FDにかわって「系別FD(公法系、民事系、刑事系)」を実施します。「系別FD」では、定期試験前に、各科目の試験問題の適切さを検討します。また、科目ごとの授業内容、教育方法、テキストの選択等について適宜総合的に見直しを行なうのも、「系別FD」活動の一環です。

その他、アカデミックアドバイザーとして課外教育活動を支援してもらったり、「臨床科目」(法律事務所での実習)の受け入れをしてもらっている弁護士との意見交換会や、司法試験受験報告会なども、教育内容方法の見直しに生かしています。

宮原： 法科大学院の場合、司法試験合格という目標がはっきりしているだけに合格できなかったり、合格しても事務所等への就職も難しくなってきたりしている状況の改善が求められていると聞いていますが、この点についてはどのようにお考えですか。

佐藤： 勉強してはじめて向き・不向きがわかることも多いです。そこで、狭義の法曹以外に、「隣接士業」の資格取得も視野に入れた指導を考えております。更に、資格はなくても法科で学んだリーガルマインドは民間企業等においても役立つと確信しております。こうした点を積極的に発信していくことが課題であると考えています。

宮原： こうした指導に対して、学生の意見を反映させる機会がありますか。

佐藤： 学期末に、「授業評価アンケート」を行っています。良かった点と改善点を中心に自由記述で実施しています。少人数ですので、匿名性を維持するのが難しいのですが、回収したものを事務局にワードで打ち直してもらい、すべてのアンケート結果に各教員がコメントを付してUPロードし、学生が閲覧できるようにしています。あわせて、全体FD会議の資料としても活用しています。

そのほか「大学院生の学習状況および生活実態調査」や「修了生満足度調査」、さらには「目安箱」を通して学生の意見を聴取し、全体FDで問題点の共有や企画に反映するようにしています。

宮原： 学部でも参考にできるFD活動が実施されているように感じました。本日はどうもありがとうございました。



佐藤先生(左)と宮原先生(右)

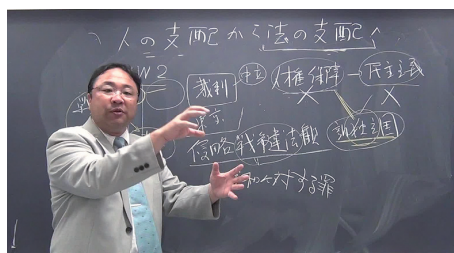
教員の取組 Pick Up 法学部 通信教育課程 ～導入ゼミナールの創設と効果～

齋藤 洋 (法学部 教授)

「書き方が分からないんですよ、先生……卒業出来そうもないです」。課題レポートになかなか合格できない年配の受講生が、背中を丸めて洩らした一言だった。とても熱心に勉強し、大卒に憧れていながら目的まで到達できないその焦燥感と諦念を感じたとき、法学教育の最も基礎部分が欠落している事に気づいた。到達方法、つまり法学部教員が経験則で身につけている発想と書き方をはっきりと教示しなければ、学習効果の向上は望めない。通信教育課程での「法学部導入ゼミ」の始まりであった。

彼らは熱意を持っている。その熱意を法学への興味に変え、方法を教え、実際に使わせてみる。わずかこの三点を実現するメソッドがなかった。特に方法については、法律家がどのような順序で、何を考えて文章にまとめるのか、様々な法律文書(判決文、論文、書籍など)を再度調べ直し、「法的思考」と「法論理的思考」を掲載した『学習の手引き』を作製した。あとは、その思考に入れる情報の検索方法及び実際に使用してみる機会を提供すれば良い。それもFace to Faceのほうが有効である。

理解と協力を得られた教員(宮原教授、芦野教授、深川准教授)



齋藤 洋先生 (法学部 教授)

とともに、ゼミ形式のスクーリングを企画し、一人一日の担当にした。内容の切り替えと教員側の集中力及び受講生側の興味を確保・継続するためである。初日が法的思考と法論

理的思考、二日目が情報検索方法と課題の提供、三日目がその課題に対するゼミ形式の討論である。

最終日のアンケート結果は、非常に高評価であった。通信教育課程を始めた最初に教員と直接話せたこと、思考方法を学べたこと、自分の見解を公表する機会を得られたこと、これらによって不安が相当程度解消されたことが原因であった。そして、特に法的思考は新生入生だけでなく、『学習の手引き』で在学生にも配布され、スクーリングで用いる教員も出てきた。その結果、卒業式で相当な年配の女性達から、「無理と思っていた卒業が出来ました。あの方法(法的思考)で書いたら、全て一回で(課題レポートが)パスできました。本当に夢のようです。」と話しかけられた。嬉しさ以上に、上記の発想と方法の教示が確実に成果を上げていることがハッキリと判った瞬間である。

それでも次の問題は残っている。この導入ゼミの担当者を多様化できないか、導入では無く在学中でも受講できるようにならないか、個々の教員の教え方にバラツキはないのかなどである。

通信教育課程の学生のほとんどは社会人あるいは定年退職者である。教員よりも人生経験と実務経験を積んでいるものも多い。その人達の厳しい評価にさらされる通信教育での教育及びそこでの工夫こそ、本学全体に应用可能で教育効果を上げることの出来る潜在力を秘めているものだと思う。上記の経験から本学はもっと通信教育の有用性に気づくべきであろう。



学習の手引

他大学との交流

「関東圏 FD 連絡会」

第15回「関東圏 FD 連絡会」

日時：2014年6月30日(月) 15:30～17:30

場所：法政大学 市ヶ谷キャンパス
ポアソナードタワー 25階 B会議室

参加者：青山学院大学、法政大学、立教大学、東洋大学の
FD担当者 計15名

概要：①各大学におけるFD活動状況報告
②その他

平成21年度より青山学院大学、法政大学、立教大学、東洋大学のFD担当者が集まり、同規模の私立大学が抱えるFD活動の問題解決と情報収集を目的とした意見交換会を開催しております。今回は、本学より、各大学におけるFD活動状況報告において「教員向け英語研修プログラム」の報告を行った青山学院大学に対し、その詳細について、また、各大学に対して、FD推進センター及びFD推進委員会規程における職員の委員会参画や学生FDチームの位置づけについて質問をし、参考となる情報を得ることができました。今後も各大学との連携を深めるとともに、本学のFD活動の改善・発展に努めて参ります。

「全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF)」

昨年度に全国私立大学FD連携フォーラム(JPFF)へ加盟したことに伴い、2014年6月14日(土)に法政大学にて開催された2014年度総会及び2014年度パネルディスカッション「アクティブ・ラーニングを支援する取り組み—主体的な学びのための授業支援と教育力活用—」へ参加いたしました。パネルディスカッションでは、明星大学、甲南大学、立教大学、関西大学より発表が行われ、学生の授業への主体的な参加を促すさまざまな取り組みについて知ることのできる大変有意義な機会となりました。今後も「実践的FDプログラム」等への参加を通して、他大学の事例やノウハウなどの情報収集や今以上の知識の蓄積と共有を行うことで、本学におけるFD活動の推進に役立てていきたいと思ひます。

FD 推進センター活動報告（平成 26 年 3 月～平成 26 年 7 月）

FD推進委員会

- ◆第 6 回
●日 時：平成 26 年 3 月 19 日（水） 15：00～17：00
●報告 1 各部会活動状況報告
●報告 2 センター長報告
●審議 1 平成 26 年度ティーチング・アシスタント FD 研修会の開催について
●審議 2 平成 26 年度授業評価アンケートの実施について
●協議 1 平成 25 年度 FD 推進センター活動 FD 推進委員会の活動報告と課題の抽出
および平成 26 年度 FD 推進センターの活動計画（案）について
●協議 2 東洋大学教育補助員採用内規の一部改正について

- ◆第 1 回
●日 時：平成 26 年 4 月 26 日（土） 10：00～12：00
●報告 1 各部会活動状況報告
●報告 2 センター長報告
●審議 1 平成 26 年度 FD 推進センターの活動計画及び活動スケジュールについて
●協議 1 平成 25 年度秋学期授業評価アンケート集計データの大学ホームページ公開について

- ◆第 2 回
●日 時：平成 26 年 5 月 24 日（土） 10：00～12：00
●報告 1 各部会活動状況報告
●報告 2 センター長報告
●審議 1 平成 26 年度新任教員 FD 研修会の開催について（7/5）
●審議 2 教育改善シンポジウムの開催について（7/19）
●協議 1 FD 推進センター規程の改正について（学生 FD チームの位置付け、職員の委員会参画）
●協議 2 教員が英語で授業を行うための FD について

- ◆第 3 回
●日 時：平成 26 年 7 月 5 日（土） 10：00～12：00
●報告 1 各部会活動状況報告
●報告 2 センター長報告
●協議 1 平成 27 年度より経済学部が全学共通の授業評価アンケートに移行するに
あたっての実施方法について
●協議 2 授業評価アンケートの実施方法の一部見直しについて
●協議 3 FD 推進センター規程の見直しについて（学生 FD チームの位置付け、職員の委員会参画）
●協議 4 教員が英語で授業を行うための FD について

研修部会

- ◆第 1 回 ●日 時：平成 26 年 4 月 29 日（金）
●議題 1 平成 26 年度 新任教員 FD 研修会開催について
●日 時：平成 26 年 7 月 5 日（土）
●議題 1 平成 26 年度 新任教員 FD 研修会の進行について

大学院部会

- ◆第 1 回 ●日 時：平成 26 年 6 月 21 日（土）
●議題 1 PFFP の今後の方向性について
●議題 1 大学院 FD ハンドブック（仮称）の作成について
●議題 1 大学院のシラバスの充実について

教育改善対策部会

- ◆第 1 回 ●日 時：平成 26 年 4 月 26 日（土）
●議題 1 教育改善シンポジウム（テーマ・企画内容）について
◆第 2 回 ●日 時：平成 26 年 5 月 24 日（土）
●議題 1 教育改善シンポジウムの開催について

授業評価手法検討部会

- ◆第 1 回 ●日 時：平成 26 年 4 月 17 日（土）
●議題 1 平成 25 年度秋学期授業評価アンケート
集計データの大学ホームページ公開について
◆第 2 回 ●日 時：平成 26 年 6 月 25 日（水）
●議題 1 平成 27 年度からの授業評価アンケートの一部変更について

編集部会

- ◆第 1 回 ●日 時：平成 26 年 6 月 27 日（金）
●議題 1 FD ニュース第 14 号の新しい取り組みについて
●議題 1 TA ハンドブック改訂に伴うアンケートの実施について
◆第 2 回 ●日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）
●議題 1 FD ニュース第 14 号のページ構成について

学内公開活動

- 平成 26 年度 TA（ティーチング・アシスタント）FD 研修会
●開催日時：平成 26 年 4 月 19 日（土） 13：00～15：00
●会 場：白山キャンパス（朝霞キャンパス合同開催）、川越キャンパス、板倉キャンパス
●参加対象：平成 26 年度春学期採用の TA・SA
●参加人数：110 名（欠席者はワークシートに取組み、録画映像を視聴しアンケートに回答）
平成 26 年度新任教員 FD 研修会
●開催日時：平成 26 年 7 月 5 日（土） 14：30～19：00
●会 場：白山キャンパス 1 号館 1307 教室
●参加対象：平成 26 年度新任専任教員（非常勤講師は自由参加） ●参加人数：33 名
平成 26 年度教育改善シンポジウム
●開催日時：平成 26 年 7 月 19 日（土） 13：00～15：50
●会 場：白山キャンパス 学修支援室・5104 教室
●参加対象：全教職員（非常勤講師含む） ●参加人数：27 名

平成 26 年度 FD 推進センター組織

